

校長通信

Morifun

これも地球温暖化のなせる業なのか、例年より2週間遅れて初雪が観測されました。暖冬は寒いのが苦手な私には嬉しいことではありますが、スキー場や雪を商売にする企業等にとっては大変な痛手になることもあります。寒くなれば室内の換気もおろそかになり、それが新型コロナウイルスの第6波にも繋がるという話もあります。欧米やお隣の韓国ではまた新型コロナウイルスが猛威を振るい始めているようで、気を緩めることはできません。巷ではインフルエンザの流行も予想されています。とにかく免疫効果を上げて体調を崩さないように気をつけていきましょう。

<野球部が地域へエール>

この夏甲子園で活躍した3年3組の生徒たちが、10月29日に地域活性化プログラム発表会を開催しました。総合的な探究の時間にも繋がる取組です。地域を盛り上げるために、以下の4つのテーマでプレゼンテーションを行いました。①野球部冬季練習見学ツアー②オリジナルの福田パン③オリジナル長靴④盛岡の美味しい物紹介発表会には外部の方も参加され、盛岡市長公室の企画調整課長さんは「弱みを強みに変えて提案まで持つていくことに感銘を受けた。普段の野球で培ったことが、野球以外の分野にも生かされている」と評価されました。

<教進コース交流学习>

教育系大学進学コースの2年生が11月19日特別支援学校作品展（盛岡市民文化ホール）を見学しました。例年実施してきた特別支援学校との交流学习がコロナ禍で難しいことから、作品展を見学して各校の活動に対する理解を深めました。



<全校礼拝より>

新約聖書 ヨハネによる福音書 3章16節

今日は韓国で作られた比較的新しい賛美歌を紹介します。歌詞をちょっと紹介すると、「きみは愛されるために生まれた きみの生涯は愛で満ちている」とあります。賛美歌集にはありませんが、韓国ではポピュラーで日本でも結構知られています。

この曲の特徴は「きみ」と呼び掛けているところです。賛美歌の多くはむしろ神に向かって、イエス・キリストに向かって歌うものですが、中には「きみ」と聞いている人に語り掛けるようなものがあります。そういう曲はむしろ神様と一緒に聞いてくれている人にメッセージを届けている内容のものです。特にこの曲は神様の愛を聞いている人に伝えるものです。

キリスト教が日本に伝わったとき、宣教師が「愛」という言葉を「ご大切」と訳したことは以前にもお話ししました。この「愛」というのは相手を大切に思う気持ちです。「愛する」というのはその気持ちを具体的な言動で

表しています。そういう意味でこの曲は「きみは大事な存在だ」ということを歌を通して伝えていることになります。

今日お読みした一節には、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」とあります。この独り子はイエス・キリストのことで、神は私たちを大切に思うが故にイエス・キリストをこの世に送った、ということです。短い言葉ですが、聖書のメッセージが凝縮されているものです。聖書は神の愛を伝えていますが、それが何かぼんやりと抽象的にあるのではなくて、具体的に示されている。それがイエス・キリストという存在なのです。私たちを大事に思うことを、イエス・キリストをこの世に送るという具体的な行動を通して伝えているのです。私達一人ひとりそれぞれにそういう役割を担っているのではないかと思います。誰かそういう自分にとって大事な人に対して、あなたは大事な存在だということを言葉とか行動を持って示す、それを互いに伝えあっていくのが私たちにとって大事なことではないのかと考えます。

◆君は愛されるため生まれた◆

당신은 사랑받기 위해 태어난 사람

きみは愛されるため生まれた きみの生涯は愛で満ちている
きみは愛されるために生まれた きみの生涯は愛で満ちている
永遠の神の愛は われらの出会いの中で実を結ぶ
きみの存在が 私にはどれほどの大きな喜びでしょう
きみは愛されるため生まれた 今もその愛を受けている
きみは愛されるため生まれた 今もその愛を受けている

(11月2日 花巻教会牧師・鈴木道也先生)

新約聖書 マタイによる福音書 5章13~16節

今日読んだ「地の塩、世の光」は去年も礼拝で取り上げましたが、改めて触れたいと思います。この後半にある「世の光」ですが、この光というのは灯（ともしび）のことで、昔はもちろん電気はなかったので、夜に灯であるランプを灯しました。灯が家の中を明るく照らすように、あなたがたもあなたの光を灯しなさいと言ってい

ます。印象的なのは、この光をわざわざ机の下に隠す人はいない、とあるように、それぞれの光を隠すのではなく、はっきりと人々の前で輝かしなさいと励ましています。ここで言う「光」とは、一人ひとりに与えられている大切な使命、役割と受け止めることが出来ます。自分に与えられた役割を、自分なんかと言うのではなく、堂々と輝かせてほしいという励ましなのです。

次に前半の「地の塩」というのは不思議な表現ですが、塩は私たちの生活のなかではなくてはならないものですが、昔は、もっと生活にはなくてはならないもの、味付けだけではなく保存料としても使われていたのです。つまり「あなたがたは地の塩である」というのは、塩が必需品であるように、私たち一人ひとりには大事な役割が託されているということなのです。「塩に塩気がなくなれば」というのは、本来私たちの大事な役割を、周囲に合わせすぎてしまって、本来の役割を見失ってしまっている状態、自分の持ち味を失くしてしまう、という状態を指しています。

周囲に合わせないで自分の持ち味をしっかりと出すというのは難しいことです。日本の社会は「同調圧力」が強い社会だといわれています。つまり「みんな同じでなければいけない」という考えが強く、それに抗うことはなかなか大変です。また、日本語特有の表現に「場の空気」があります。同調圧力というのは空気の支配と言えるでしょう。2007年には「KY」というのが流行語に選ばれました。「空気が読めない」ということですが、逆に「空気を讀む」というのはいいことでもあるし、コミュニケーションが取れているとか、「空気を讀んだ言動だ」と言うこともあります。一方で空気を讀み過ぎることもネガティブな行動になるわけで、事態が変な方向に行っているのではないかと本当はストップをかけなければならないのに、空気を讀み過ぎるために、言うべきことが言えない状態になってしまうのです。そういう意味では、空気を讀むことも時には大事だけど、時には空気を讀まないことも大事になります。空気を讀まずに勇気をもっ

て行動することも改めて大事なことと思われま

最後に注目してほしいのは、この「地の塩、世の光」というのが、将来的にそうなりますようにとか、未来にそうなるようにというのではなく、「あなたがたは地の塩であり、世の光である」ことを現在形で語られていること。努力していつかそうなるのではなく、今そうなのだ、だからあなた方は今自分の大事な役割を持っているということ、大勢の中の一人ではなくて、掛け替えの無い一人の存在なんだ、そういうことを思い出すことが、空気を讀むことや同調圧力に抗っていく力になるのです。この「地の塩、世の光」ということを心に留めて、自分の大事な持ち味、役割を果たしてほしいと思います。

(11月16日 花巻教会牧師 鈴木鈴木道也先生)



<部活動の活躍から>

コロナも落ち着きを見せ、新入大会等各種大会も予定通り行われています。まずは新入大会を制した柔道部が、全校高校選手権大会県予選で堂々の3連覇を成し遂げました。個人戦でも実力を遺憾なく発揮し5階級のうち3階級を制しました。過去2年はコロナ禍のため全国大会は中止となっています。今度こそ全国の舞台に立つことを祈るばかりです。日報駅伝では、Aチームが大会新記録で3位に入賞。大宮主将が3区で区間新の力走を見せしてくれました。

【柔道部】全国高校選手権大会県予選 (11/19~20)

団体 優勝 2回戦 3人残し 一関学院 準々決勝 5人残し 専大北上 準決勝 2人残し 福岡工 決勝 2人残し 盛岡南 (3年連続10回目の優勝)

個人 60kg級③石綿温人 66kg級②勝田隆暖 73kg級①戸浦風汰③栄真智 81kg級①佐々木康太②山田煌晟 無差別級①相場啓吾②浅田唯斗③菊地悠希

【陸上部】一関・盛岡間駅伝競走大会 (11/23)

第3位 盛岡大附A2時間33分54秒

【1区 井坂一希⑥ 2区 佐々木稼全② 3区 大宮大虎① 4区 天瀬海斗④ 5区 佐藤美寿輝② 6区 若林夢希③】

第6位 盛岡大附B2時間42分57秒

【1区 松浦海斗⑧ 2区 工藤七斗⑤ 3区 田中佑弥⑧ 4区 大宮大和⑥ 5区 菊池冬磨⑥ 6区 岩館周音⑤】

【サッカー部】新入大会 (11/20~21)

2回戦 4-1 宮古 3回戦 3-4 不来方

【野球部】1年生野球交流岩手県大会 (10/30~31)

1回戦 11-0 (5回C) 一関一 準決勝 6-12 花巻東

<映画は原作を超えられるか>

「読んでから見るか、見てから読むか」これは私が学生時代の頃に流行った角川映画のキャッチフレーズである。これに踊らされるように、『人間の証明』や『犬神家の一族』を見ては、原作を讀み、改めて森村誠一や横溝正史の存在を知った。何で今頃こんなことをいうかと言うと、最近見た映画がまさにこれに当てはまるからである。それは『そしてバトンは渡された』である。私は先に原作を讀んで感動したのだが、この映画も泣けるのである。原作を超えたかと言うと微妙だが、構成上甘い部分も確かにあるが、キャスティングの妙と言うか、ちゃんと納得させられ、感情移入できたのである。百聞は一見に如かず、一読に如かずか…お薦めの一品である。